

定 期 作 況 報 告

平成30年8月
(8月20日現在)



道 総 研

北見農業試験場

1. 気象経過

7月下旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温および平均気温はともに平年より高かった。降水量は平年より少なかった（平年比6%）。日照時間は平年より多かった（平年比156%）。

8月上旬：最高気温は平年よりやや低く、最低気温は平年より極めて低く、平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年並であった（平年比94%）。日照時間は平年より多かった（平年比160%）。

8月中旬：最高気温、最低気温、平均気温はともに平年より極めて低かった。降水量は平年より多かった（平年比196%）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比62%）。

以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は、気温は平年よりやや低く、降水量および日照時間はともに平年よりやや多かった。

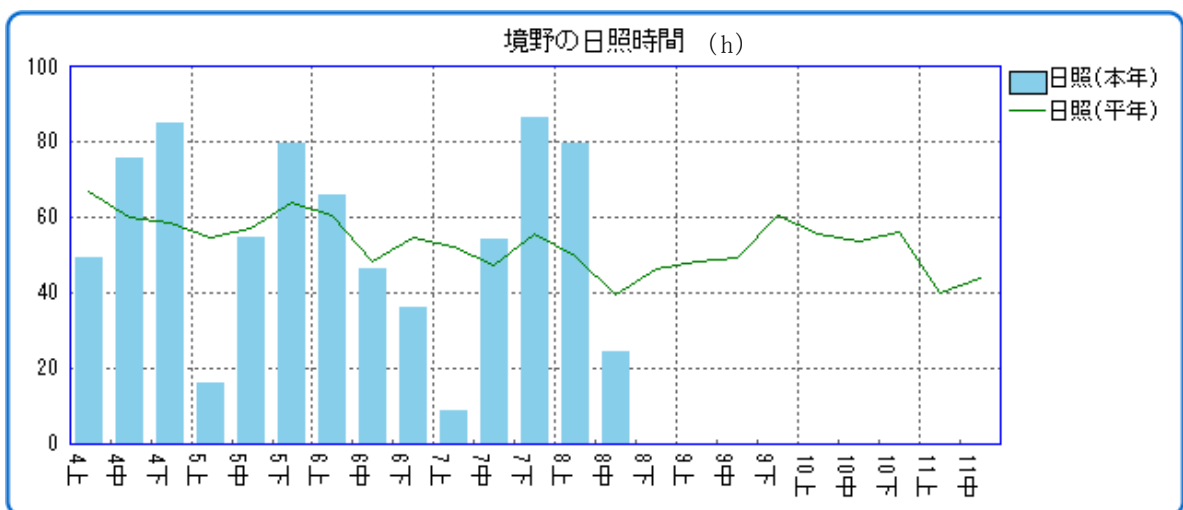
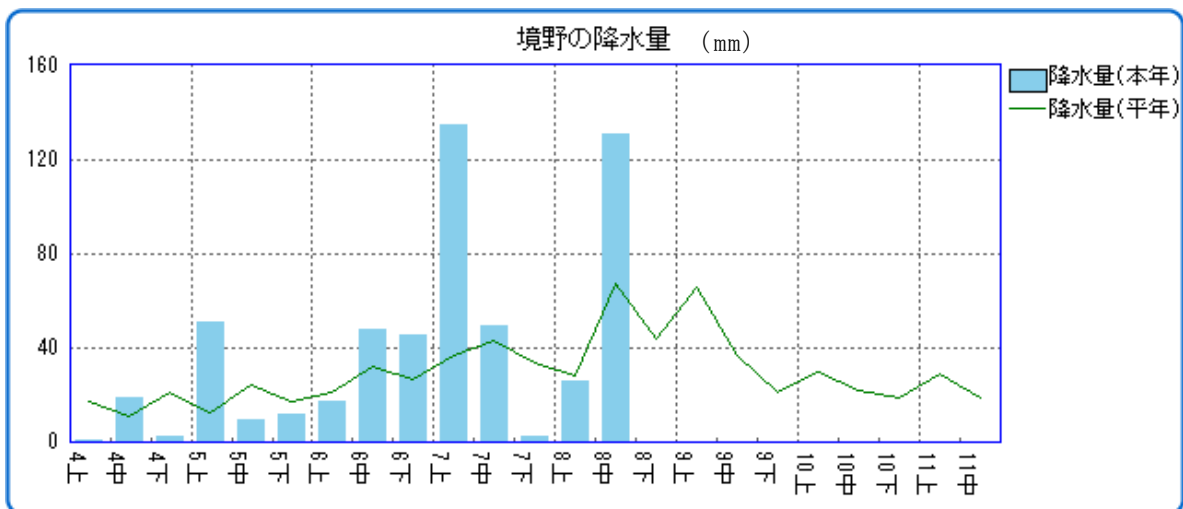
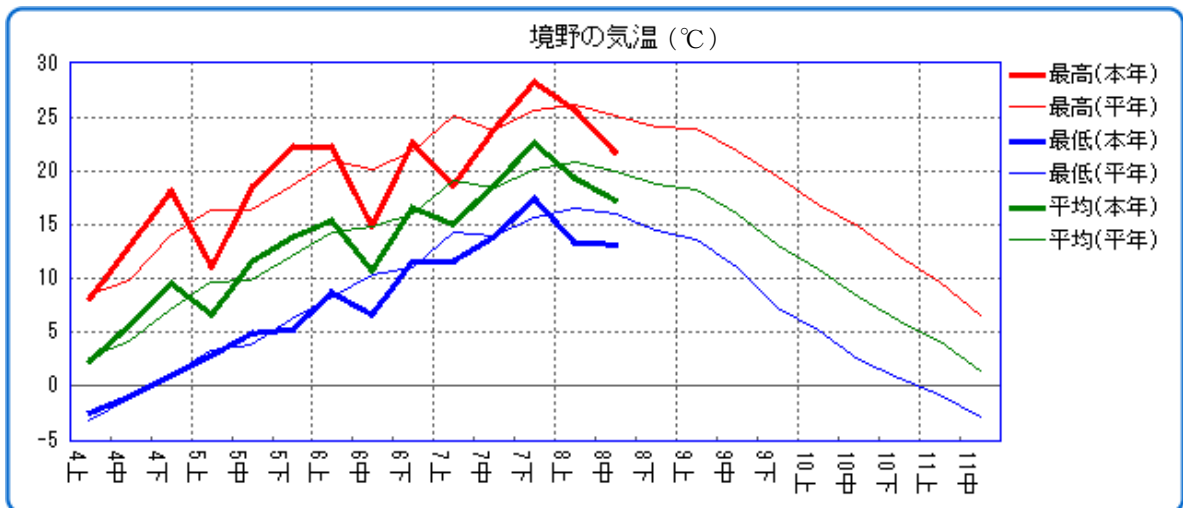
気 象 表

月 旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	22.5	20.2	2.3	28.2	25.7	2.5	17.4	15.6	1.8
8月 上旬	19.4	20.8	-1.4	25.6	26.2	-0.6	13.3	16.6	-3.3
8月 中旬	17.2	20.0	-2.8	21.8	25.1	-3.3	13.2	16.0	-2.8

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	2.0	33.5	-31.5	86.7	55.7	31.0
8月 上旬	26.0	27.7	-1.7	80.0	49.9	30.1
8月 中旬	131.0	66.9	64.1	24.6	39.7	-15.1

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作 況：不良

事 由：成熟期は7月30日で平年より5日遅かった。リットル重は平年並で、千粒重は平年を上回った。穂数が少なかったこと（前報）から、子実重は平年比91%であった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
成熟期（月・日）	7.30	7.25	5
子実重(kg/10a)	654	722	△69
同上平年比(%)	91	100	△9
リットル重(g)	805	800	5
千粒重(g)	41.9	38.8	3.1

注) 平年値は前7か年中、平成27年（最豊）、29年（最凶）を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作 況：やや良

事 由：8月上旬の平均気温はやや低く、成熟期は平年より4～6日遅くなった。開花期の7月上旬が低温で降水量が多く、日照時間も少なかったことから、不稔となる小花が認められた。「春よ恋」では8月9日の降雨で倒伏が発生したが軽微であった。稈長は平年並で、穂長はやや長く、穂数は多い（前報）。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期（月・日）	8.9	8.5	4	8.12	8.6	6

注) 平年値は前7か年中、平成27年（最豊）、29年（最凶）を除く5か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用) 作 況 : 不良

事 由 : 開花期は平年より 5 日遅く、抽糸期は平年より 7 日遅かった。7 月下旬の気温が平年より高かったものの、8 月上～中旬の気温は平年より低く経過したため草丈は平年より 52.6cm 低かった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
開花期 (月. 日)	8. 7	8. 2	5
抽糸期 (月. 日)	8. 8	8. 1	7
草丈 (cm) (8 月 20 日)	255. 2	307. 8	△ 52. 6
葉数 (枚) (8 月 20 日)	15. 4	15. 0	0. 4

注) 平年値は前 7 か年中、平成 23 年 (最豊)、25 年 (最凶) を除く 5 か年の平均。

4) 大 豆 作 況 : 不良

事 由 : 開花始は平年より 7 日遅かった。7 月下旬の高温多照により生育は一旦回復傾向となったが、8 月上～中旬の低温により生育は再び停滞し、主茎長、主茎節数、着莢数とも平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
開花始 (月. 日)	7. 25	7. 18	7. 0
主茎長 (cm) (8 月 20 日)	55. 0	72. 6	△ 17. 6
主茎節数 (8 月 20 日)	10. 0	11. 3	△ 1. 3
分枝数 (本/株) (8 月 20 日)	5. 8	5. 9	△ 0. 1
着莢数 (莢/株) (8 月 20 日)	67. 6	81. 4	△ 13. 8

注 1) 平年値は前 7 か年中、平成 23 年 (最豊)、28 年 (最凶) を除く 5 か年の平均。

注 2) 着莢数は、莢の長さが 2 cm 以上のものを示す。

5) 小 豆 作 況 : 不良

事 由 : 開花始は「サホロショウズ」で 7 日、「エリモショウズ」で 5 日遅れた。7 月下旬の高温多照により、生育はやや回復したが、8 月上～中旬の低温により生育は再び停滞し、主茎長、主茎節数、分枝数とも平年を下回っており、着莢数も平年を大幅に下回っている。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.29	7.22	7	7.29	7.24	5
主茎長 (cm) (8月20日)	53.0	77.7	△24.7	48.4	70.3	△21.9
主茎節数 (8月20日)	12.5	13.7	△ 1.2	13.3	14.3	△ 1.0
分枝数(本/株) (8月20日)	1.9	4.4	△ 2.5	0.9	4.6	△ 3.7
着莢数(莢/株) (8月20日)	13.3	48.7	△35.4	4.7	50.7	△46.0

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

6) 菜豆 作 況 : やや不良

事 由 : 開花後、7月下旬の高温多照により順調に着莢したため、着莢数は平年並を確保したが、8月上～中旬の低温により生育は再び停滞し、草丈は平年をかなり下回り、分枝数も平年を下回っている。また、8月中旬の多雨傾向により、若干なびき気味の生育となっている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
草丈 (cm) (8月20日)	30.7	49.3	△18.6
主茎節数 (8月20日)	5.7	5.2	0.5
分枝数(本/株) (8月20日)	4.6	5.2	△ 0.6
着莢数(莢/株) (8月20日)	22.1	21.0	1.1

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが4cm以上のものを示す。

7) ばれいしょ 作 況： やや不良

事 由：前報での生育の遅れは回復しつつあり、「男爵薯」の上いも重は平年並である。しかし、「コナフブキ」では、でん粉価は平年よりやや高いものの、上いも重は平年を下回っている。
 以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎長(cm) (8月20日)	54	51	3	79	79	0
上いも重(kg/10a) (8月20日)	4522	4558	△36	3350	3819	△469
でん粉価(%) (8月20日)	16.1	15.4	0.7	22.2	21.0	1.2

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、29年(最凶)を除く5か年の平均。

8) てんさい 作 況： 平年並

事 由：7月下旬は高温傾向となり、日照時間も長かったため、生育は回復傾向にあり、ほぼ全ての項目で平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	58.9	59.5	△0.6	61.3	57.4	3.9	61.7	62.5	△0.8
生葉数(枚) (8月20日)	21.9	23.1	△1.2	26.0	25.8	0.2	22.4	21.6	0.8
茎葉重(g/個体) (8月20日)	762	746	16	941	830	111	803	773	30
根重(g/個体) (8月20日)	748	769	△21	783	790	△7	512	551	△39
根周(cm) (8月20日)	32.9	32.8	0.1	34.4	34.4	0.0	27.8	28.5	△0.7

注1) 平年値は前7か年中、26年(最豊)、平成28年(最凶)を除く5か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況：平年並

事由：2番草の収穫は、平年より7日早い8月3日に行った。2番草収穫時の草丈と節間伸長程度は平年並であった。また、乾物収量は2番草および1、2番草合計のいずれも平年比97%と平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	2番草	8.3	8.10	△7
節間伸長程度	2番草	3.0	2.7	0.3
病害罹病程度	2番草	4.0	3.5	0.5
草丈(cm)	2番草	53	57	△4
生草収量(kg/10a)	2番草	557	756	△199
乾物率(%)	2番草	30.9	23.8	7.1
乾物収量(kg/10a)	2番草	172	177	△5
同上平年比(%)	2番草	97	100	△3
乾物収量(kg/10a)	1+2番草	762	785	△23
同上平年比(%)	1+2番草	97	100	△3

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、27年(最凶)を除く5か年の平均。

節間伸長程度は、1:無~9:極多。病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

10) たまねぎ

作況：やや不良

事由：倒伏期は、「オホーツク222」では平年より1日早く、「北もみじ2000」では3日遅かった。一球重は、「オホーツク222」、「北もみじ2000」とともに、平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	オホーツク222			北もみじ2000		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
肥大期(月.日)	7.17	7.11	6	7.21	7.19	2
倒伏期(月.日)	7.29	7.30	△1	8.8	8.5	3
根切日(月.日)	8.13	8.12	1	-	8.24	-
一球重(g)(8月20日)	251.9	279.3	△27.4	218.5	256.7	△38.2

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。